

RPC-M4LSファームウェアバージョンアップ

4.30Aでの新機能ご紹介 ならびに 注意書き

明京電機株式会社
1.0版(2025/2作成)

弊社リブーターWATCH BOOT L-zero [RPC-M4LS]を平素ご利用いただき、誠にありがとうございます。

ファームウェアを「4.30A」にバージョンアップ後、使用できる機能をご紹介します。

※1.30Aからのバージョンアップ後には「必ず初期化」していただく必要があります。

注意：書換後、ダウングレードを行うことはできません。

《大きな追加機能》

- ・電源管理クラウド365WEB画面で設定したスケジュールが、リブーターに設定書き込み可能となりました。(従来のPOC365サーバーからのコマンド発行によるスケジュール制御も選択可能です)

仮にリブーター側で通信途絶などが生じ、POC365サーバーに繋がらない状態でもリブーター側に書き込まれて設定されたスケジュールで確実に実行するようにできます。

★ご注意:サーバーからリブーターにスケジュール設定可能状態にしたとき、リブーター側(RPCシリーズ)にそれ以前に設定されていた「全スケジュールが消去されて、サーバー側で書き込み指定したスケジュール設定が書き込まれる」仕様となっています。
また、RSCシリーズではこの「スケジュール設定書き込み機能」は対応しておりません。
RSCシリーズは従来のサーバーからのコマンド発行によるスケジュール制御をご利用ください。

- ・電源管理クラウド365WEB画面からのオンラインバージョンアップに対応しました。

※電源管理クラウド365をご使用になるには、保守パックのご契約が必要となります。

《1.20Aよりも前のファームウェアをご使用のお客様》

- ・従来の「排他制御方式」に加え、「ガードタイム方式」も選択可能に。

- ・WEB画面での電源制御、仮想アウトレット制御(WoL送信)時、確認ポップアップなしに即制御実行可能に。

- ・上記の機能追加に伴い、

- メール制御、新機能のMPMP制御での電源制御を実行するには「ガードタイム方式」選択必須。

- ダイレクトWEBコマンドでの電源制御を実行するには「ガードタイム方式」ならびに「電源制御時の動作確認:なし」選択必須。

となりました。

- ・一斉電源制御に改良を加えました。

親機としてコマンド実行後の結果通知をさらに改良しました。

「ガードタイム方式」選択時、子機側リブーターのWEB画面操作が可能になりました。

- ・電源管理クラウド365に対応しました。

電源管理クラウド365をご使用になるには、保守パックのご契約が必要となります。

※1.30Aでは電源管理クラウド365とは連携できなくなりました。必ず4.10A以降にしてください。

※1.30Aからのバージョンアップ後には「必ず初期化」していただく必要があります。

- ・SNMP TRAPの表現修正。

<https://www.meikyo.co.jp/archive/#mib> から取得できる最新のMIBファイルをご利用ください。

《バージョンアップの方法》

システム設定項目の[詳細設定]をクリックします。詳細設定画面が表示されます。

No.	アウトレット名称	MACアドレス
1	Outlet1	00:00:00:00:00:00

[ファームウェア更新]をクリックすると、以下のメニューが開きます。

現在のファーム情報	
バージョン	4.00A.230119
モデル名	RPC-M4LS

バージョンアップ方法の選択	
オンラインアップデート	開始
ローカルファイルの選択	ファイル選択

オンラインアップデートを行う場合：[開始]をクリックすると、弊社サーバーに接続してアップグレードします。

ローカルアップデートを行う場合：[ファイル選択]をクリックし、PCに保存したアップグレード用のファイルを選択してアップグレードします。

《バージョンアップの際のご注意》

[1] 何かのアクシデントでバージョンアップに失敗した場合

本装置は、バージョンアップに失敗しても、「データ再送」画面が表示されるか、バージョンアップ前のファームウェアで動作する仕様となっています。アップデートの途中で停電や通信途絶が発生し、バージョンアップに失敗した場合、以下の手順でデータ再送を行ってください。

この時に、**本装置のRESETボタンを押さないようにしてください。**

通信途絶/回復の頻度とタイミングによっては、RESETボタンを押すとお客様の手元での再書き込みが不可能な状態になってしまうおそれがあります。(不可能状態に陥った場合、弊社カスタマーサポートにご連絡ください。)

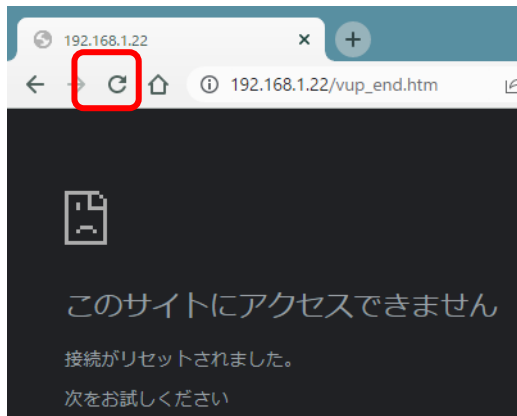
発生した状況に合わせて、以下の対応を行ってください。

- 通信途絶したが、WEBブラウザが待機中となっている場合



↑待機中はそのままお待ちください。

- 通信途絶の時間が長く、WEBブラウザからHTTPリクエストが途絶えた場合
例)Chromeの場合

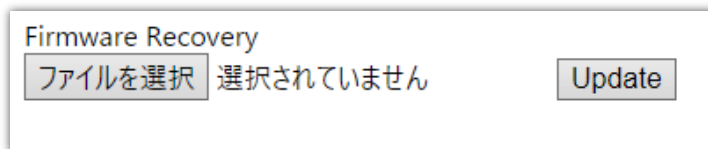


↑「再読込」ボタンをクリック(その後、[続行]やそれに類するボタンをクリック)してください。

- 停電やコンセント抜けでリブーターの電源がOFFとなった場合
一度WEBブラウザを閉じてから、再度WEBブラウザを開いてリブーターにアクセスしてください。ログアウト画面が表示された場合は、ログインボタンをクリックしてください。
- 更新中にWEBブラウザを閉じた場合
WEBブラウザを開き、リブーターにアクセスしてください。

そうしますと、WEB画面に以下のいずれかの画面が表示されます。

- ログイン画面が表示され、ログイン後はメニューと簡易情報表示画面になる
そのままご使用いただけますが、使用前にシステム情報を開き、バージョンを確認してください。
旧バージョンの場合は、再度バージョンアップを行ってください。
- WEB画面に以下の表示が出る



この場合は「ローカルファイル選択によるアップデート」を実施する必要があります。

バージョンアップファイルは明京電機株式会社ホームページにあります。

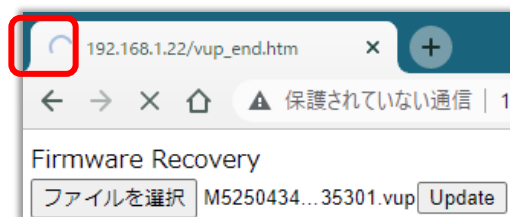
<https://www.meikyo.co.jp/archive/>の、「アップデート(ファームウェア &ソフトウェア)」のセクションから該当機種のバージョンアップファイルをダウンロードしてください。

WEB画面の「ファイルを選択」をクリックし、用意したバージョンアップファイルを選択します。

その後、「Update」をクリックし、アップデートを実施します。

「Update」クリック後は、しばらくお待ちください。

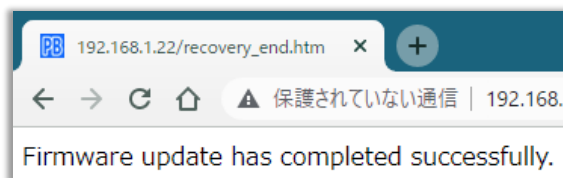
↓ Webブラウザにて「待機中」になっている間はそのままお待ちください。



1分以上経過しても表示が変わらない場合のみ、本体RESETボタンを押して再び実行してください。

(初期化は絶対にしないでください。正常稼働しなくなります。)

成功すると、



と表示されます。この後、リブーターのIPアドレスにアクセスし、「CPUリセット」を実行します。

[2] ファームウェア:1.20Aを既にご利用のお客様で「メール制御」「ダイレクトWEBコマンド」機能をご使用の方へ

新仕様において

「メール制御」 : 「ガードタイム方式」選択必須

「ダイレクトWEBコマンド」 : 「ガードタイム方式」かつ「制御動作確認:なし」選択必須
となりました。

★4.10A以降にバージョンアップ後、本書の1.と2.の設定を行ってから上記の2機能をご使用ください。

[3] ファームウェア:1.30Aをご利用のお客様で「サーバー連携」機能をご使用の方へ

変数初期値変更を行う必要があるため、バージョンアップ後「必ず初期化」を行っていただく必要があります。

【初期化の方法】

- 0) 本体電源スイッチをOFFにします。
- 1) 本体前面DIPスイッチ1と3だけON(下)にします。
- 2) 本体電源スイッチをONにし、電源供給します。
- 3) 本体前面LINK LEDが5秒間点灯します。その間に本体前面RESETスイッチを押します。
(LINK LEDが消灯してしまったときは0)からやり直してください。)
- 4) 初期化が成功したときはLINK LEDとACT LEDが点灯します。
- 5) 初期化後はメンテナンスモードにて「同意」するところから始まります。DIPスイッチ3だけをONにして、192.168.10.1にアクセスしてください。

《変数の差異》

《1.20Aよりも前のファームウェアをご使用のお客様》

- 先述の機能追加により、以下の変数がListに追加されています。

debOlControlSAEnabled
WEBからの電源操作時、ポップアップでの確認表示有無(デフォルト:0[あり])

debOlControlGTEnabled
電源制御方式(0[デフォルト]:排他制御方式 1:ガードタイム方式)

debOlControlOnGuardTime
[ガードタイム方式時]ON/REBOOT操作後のガードタイム(デフォルト10秒)

debOlControlOffGuardTime
[ガードタイム方式時]OFF操作後のガードタイム(デフォルト10秒)

centerCmdHostID
MPMPによるコマンド制御で使用するID(3箇所設定可能)

centerCmdPassword
MPMPによるコマンド制御で使用するパスワード(3箇所設定可能)

scEnabled
サーバー制御有効化(0[デフォルト]:無効 1:有効)

- 従来機能の改良により、以下の変数がListに追加されています。

hbHeartbeatChar
ハートビートパケット文字列(デフォルト:HB)

hbHeartbeatSource=0
HB監視:電源供給アウトレット(デフォルト:0)

- 使用されていない変数のため、以下の変数をListから削除しました。

mailLogoutTime
terminalId
httpCommandReturn
httpCommandSet
httpPageStart

《新機能詳細》

([2]以降は1.20Aよりも以前のバージョンをご利用の方への内容となります)

[1] 【4.10A以降にバージョンアップしてから】電源管理クラウド365からのオンラインバージョンアップ

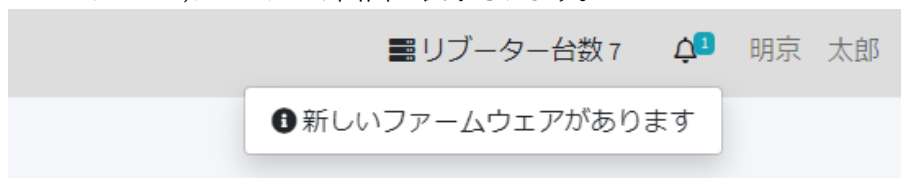
4.10A以降にアップデートすることにより、次回以降のファームウェアアップデートを電源管理クラウド365から行うことができます。

注意 正常にファームウェアアップデートが完了すると、自動でリブーターのCPUリセットが行われます。
CPUリセットに伴いアウトレットの状態は変化いたしません、イベントログが消去されます。リブーターのログが必要な場合は事前に保存してください。

アップデートが可能になると、ダッシュボードに通知が表示されます。
通知は管理者権限ユーザーのログイン時のみ表示されます。



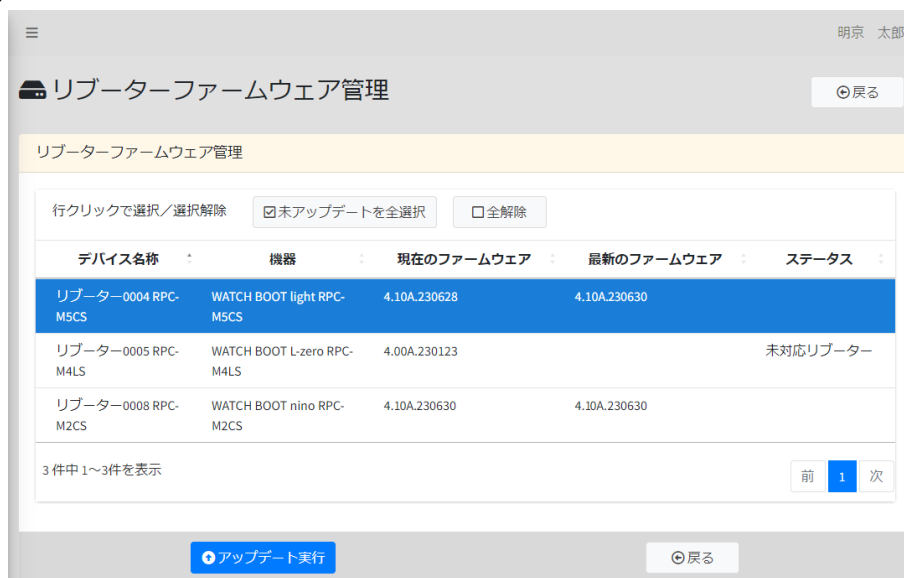
通知マークをクリックでメッセージが表示されます。
メッセージをクリックで、アップデート画面が表示されます。



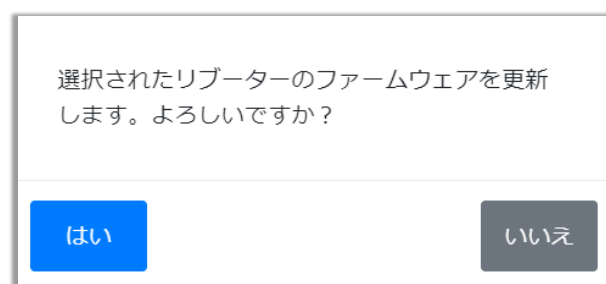
アクティベートされたリブーターが一覧で表示されます。
アップデート可能なリブーターは赤背景で表示されます。
ファームウェアアップデート未対応のリブーターはステータスに「未対応リブーター」と表示されます。
未対応リブーターはリブーターのWEB画面からアップデートを行う必要があります。



アップデートを行うリブーターの行をクリックして、アクティベートするリブーターを選択します。
[未アップデートを全選択]をクリックでアップデート可能なリブーターをすべて選択することができます。



[アップデート実行]をクリックで確認のメッセージが表示されますので、[はい]をクリックします。



ファームウェアのアップデートが実行されます。実行中のリブーターは背景が灰色となり、ステータスが「リブーター待機中」または「アップデート中」となります。
背景が灰色の間は、リブーターの操作を行うことはできません。

三

明京 太郎

🏠

リポーターファームウェア管理

⌂ 戻る

リポーターファームウェア管理

行クリックで選択／選択解除

☑ 未アップデートを全選択

☐ 全解除

デバイス名称	機器	現在のファームウェア	最新のファームウェア	ステータス
リポーター-0004 RPC-M5CS	WATCH BOOT light RPC-M5CS	4.10A.230628	4.10A.230630	アップデート中
リポーター-0005 RPC-M4LS	WATCH BOOT L-zero RPC-M4LS	4.00A.230123		未対応リポーター
リポーター-0008 RPC-M2CS	WATCH BOOT nino RPC-M2CS	4.10A.230630	4.10A.230630	

3件中 1～3件を表示

前

1

次

🔄 アップデート実行

⌂ 戻る

リポーターのアップデートが完了すると、ステータスに「アップデート完了」と表示されます。

三

明京 太郎

🏠

リポーターファームウェア管理

⌂ 戻る

リポーターファームウェア管理

行クリックで選択／選択解除

☑ 未アップデートを全選択

☐ 全解除

デバイス名称	機器	現在のファームウェア	最新のファームウェア	ステータス
リポーター-0004 RPC-M5CS	WATCH BOOT light RPC-M5CS	4.10A.230630	4.10A.230630	アップデート完了
リポーター-0005 RPC-M4LS	WATCH BOOT L-zero RPC-M4LS	4.00A.230123		未対応リポーター
リポーター-0008 RPC-M2CS	WATCH BOOT nino RPC-M2CS	4.10A.230630	4.10A.230630	

3件中 1～3件を表示

前

1

次

🔄 アップデート実行

⌂ 戻る

9

[2] ガードタイム方式による多重ログイン

電源制御可能なユーザー[Admin権限, Control権限]がWEB, シリアル, Telnet, メールなどでログインしている時には, 他の電源制御可能なユーザーはログインできない「排他制御方式」に加え, ガードタイムを設けることで電源制御可能な複数のユーザーがログインし, 制御を実行可能な「ガードタイム方式」を選択できるようになりました。(方式を切り替える際, 同意を求めるポップアップが表示されます。)

IPアドレスが

RPC-M4LS : 192.168.1.100
端末A : 192.168.1.10
端末B : 192.168.1.214 となっているとします。

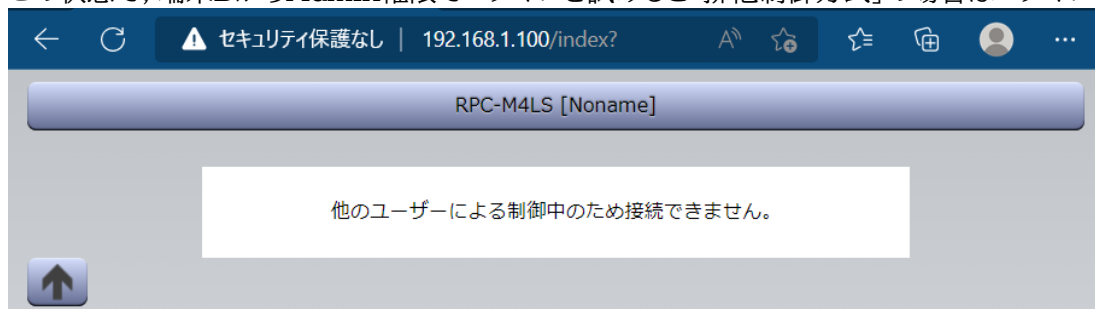
●従来の「排他制御方式」

下の画面のように, 端末AからRPC-M4LSのWEB画面にAdmin権限でアクセスしているとします。

The screenshot shows the web interface of the WATCH BOOT L-zero RPC-M4LS device. The browser address bar shows the URL 192.168.1.100. The page title is 'WATCH BOOT L-zero RPC-M4LS'. The main content area is titled '簡易状態表示' (Simple Status Display). On the left, there is a sidebar with buttons for '状態表示' (Status Display), '簡易状態表示' (Simple Status Display), '詳細状態表示' (Detailed Status Display), 'イベントログ' (Event Log), '制御' (Control), '電源制御' (Power Control), '機器設定' (Device Settings), 'システム設定' (System Settings), 'ネットワーク設定' (Network Settings), '監視設定' (Monitoring Settings), 'スケジュール' (Schedule), 'システム情報' (System Information), '簡易説明' (Simple Explanation), 'CPUリセット' (CPU Reset), and a user login section showing 'admin' and '192.168.1.10'. The main content area has a '機器情報' (Device Information) section with fields for '機器名称' (Device Name) set to 'Noname' and '設置場所' (Installation Location) set to 'Nowhere'. Below this is an 'アウトレット状態' (Outlet Status) section with a table showing the status of four outlets.

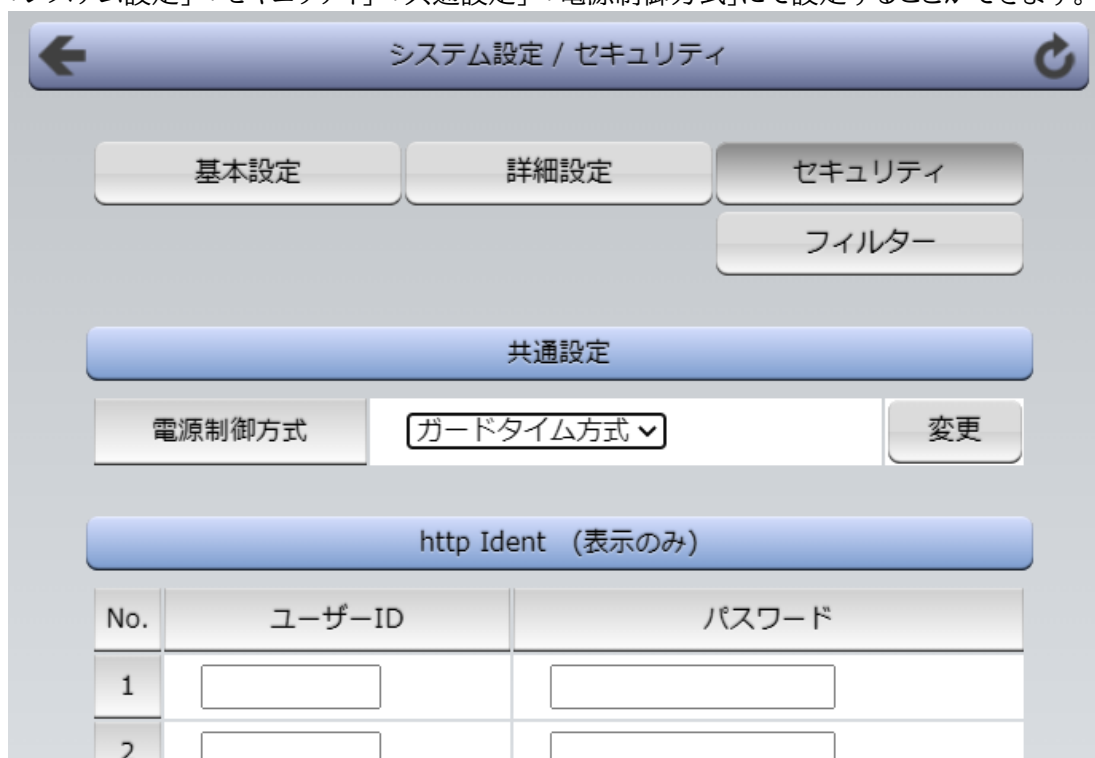
No.	名称	設定	状態	電源
1	Outlet1			OFF
2	Outlet2			OFF
3	Outlet3			OFF
4	Outlet4			OFF

この状態で、端末BからAdmin権限でログインを試みると「排他制御方式」の場合はログインできません。

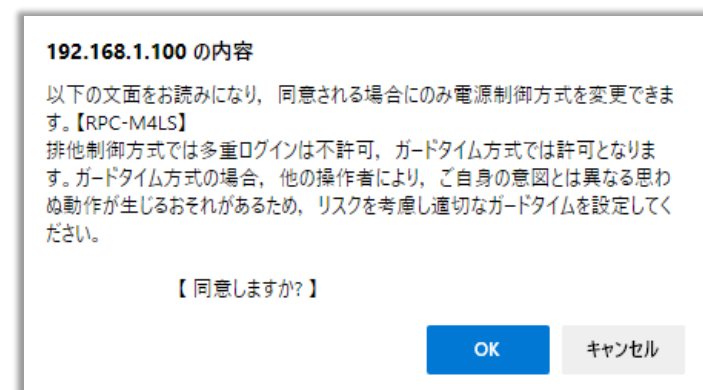


●新機能「ガードタイム方式」

「システム設定」-「セキュリティ」-「共通設定」-「電源制御方式」にて設定することができます。



[変更]を押下すると、同意確認画面が表示されます。



← システム設定 / セキュリティ ↻

基本設定 詳細設定 セキュリティ
フィルター

CPUリセットを実行して、設定に変更を適用する必要があります。

共通設定

電源制御方式 ガードタイム方式 ▼ 変更

ON/REBOOT後, ガードタイム(秒)	10
OFF後, ガードタイム(秒)	10

[ON/REBOOT後, ガードタイム][OFF後, ガードタイム]を設定できます。

●CPUリセットが要求されるので、左サイドバーにて[CPUリセット]を押下します。

「ガードタイム方式」であれば、端末A、端末B両方からRPC-M4LSに多重ログインすることが可能になります。

← → ↻ ▲ セキュリティ保護なし | 192.168.1.100/in... A ☆ 田 人 ...

WATCH BOOT L-zero
RPC-M4LS

状態表示
簡易状態表示
詳細状態表示
イベントログ
制御
電源制御
機器設定
システム設定
ネットワーク設定
監視設定
スケジュール
システム情報
簡易説明
CPUリセット

admin
192.168.1.10
admin

← 簡易状態表示 ↻

機器情報

機器名称 Noname
設置場所 Nowhere

アウトレット

No.	名称
1	Outlet1
2	Outlet2
3	Outlet3
4	Outlet4

状態表示
簡易状態表示
詳細状態表示
イベントログ
制御
電源制御
機器設定
システム設定
ネットワーク設定
監視設定
スケジュール
システム情報
簡易説明
CPUリセット

admin
192.168.1.214
admin

← 簡易状態表示 ↻

機器情報

機器名称 Noname
設置場所 Nowhere

アウトレット状態

No.	名称	設定	状態	電源
1	Outlet1			OFF
2	Outlet2			OFF
3	Outlet3			OFF
4	Outlet4			OFF

↑

[3] 制御確認 2段階／即時実行の切替

電源制御, 仮想アウトレット制御 (WoL送信) において, デフォルトでは制御ボタンを押下後「制御動作確認」のポップアップが表示され, [OK] ボタンを押下することで制御が実行されます。(ダブルアクションによる, 操作者の意図確認)

1.30Aならびに4.00Aのファームウェアでは「制御動作確認」のポップアップを表示させないように設定できるようになりました。

●従来の動作確認「あり」方式

電源制御, 仮想アウトレット制御 (WoL送信) で制御ボタンを押下すると, 下図のように動作確認のポップアップが表示され, [OK] 押下後に制御が実行されます。

The screenshot shows the RPC-M4LS Web Console interface. A confirmation dialog is displayed in the center, asking for confirmation to power off all outlets. The dialog has two buttons: 'OK' and 'キャンセル' (Cancel).

192.168.1.100 の内容
全アウトレットにPower OFFを行いますか?

機器情報

機器名称	Noname
設置場所	Nowhere

アウトレット情報

No.	名称	制御			電源状態
1	Outlet1	ON	OFF	Reboot	ON
2	Outlet2	ON	OFF	Reboot	ON
3	Outlet3	ON	OFF	Reboot	ON
4	Outlet4	ON	OFF	Reboot	ON
	All Outlets	ON	OFF	Reboot	

●動作確認「なし」方式

「システム設定」-「基本設定」-「アウトレット設定」-「電源制御時の動作確認」で設定します。

(デフォルト値:「あり」)

この項目で「なし」を選択し、画面下部の[適用]を押下します。

WATCH BOOT L-zero
RPC-M4LS

システム設定 / 基本設定

基本設定 詳細設定 セキュリティ

時刻設定

※特殊記号は利用不可

機器情報

機器名称: Noname

設置場所: Nowhere

アウトレット設定

No.	アウトレット名称	OFF	REBOOT	ON	START
1	Outlet1	0	10	1	1
2	Outlet2	0	10	2	2
3	Outlet3	0	10	3	3
4	Outlet4	0	10	4	4

全アウトレットREBOOT時間 (秒) 10

電源制御時の動作確認 あり

OFFを「-1」にするとOFF操作を使用不可にします。

これにより、電源制御、仮想アウトレット制御(WoL送信)で制御ボタンを押下後、即時、その制御が実行されるようになります。

●メール、ダイレクトWEBコマンド、MPMPでの電源制御について

1.30Aならびに4.00Aのファームウェアから、

・メールによる電源制御 「ガードタイム方式」選択必須

・ダイレクトWEBコマンドによる電源制御 「ガードタイム方式」かつ「制御動作確認:なし」選択必須

・MPMPでの電源制御 「ガードタイム方式」選択必須
となっています。

上記の方式を選択せずに実行すると

「511 Command failed. Select the appropriate mode.」

というエラーコードが表示され、電源制御は実行されません。

[4] 一斉電源制御

一斉電源制御の結果通知をさらに改良しました。

●親機として使用する場合

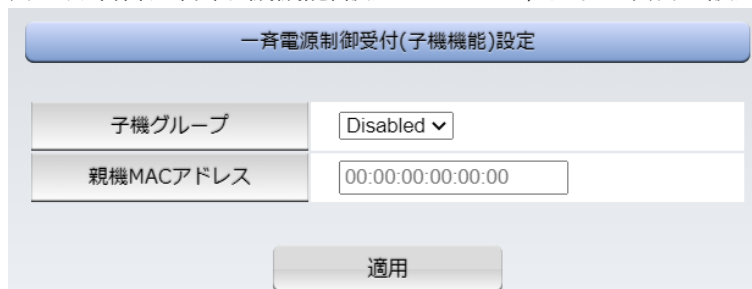
WEB画面の「電源制御」→「一斉制御」から、グループ指定・実行コマンドを指定して「送信」クリック後、3秒待機ののちに、子機応答結果を表示するようになりました。

●子機として使用する場合の設定(「ガートタイム方式」選択時)

「ガートタイム方式」選択時のみ、メンテナンスモードに切り替えずにWEB画面にて設定を行うことが可能になりました。(FW:1.20Aでは、メンテナンスモードでのみ設定可能な項目でした。)

「ネットワーク設定」-「詳細設定」をクリックします。

一斉電源制御受付(子機機能)設定メニューで、以下の項目を設定できます。



一斉電源制御受付(子機機能)設定	
子機グループ	Disabled ▼
親機MACアドレス	00:00:00:00:00:00
適用	

子機グループ : Disabled Group1~8
デフォルト Disabled

親機MACアドレス : 一斉電源制御コマンドが送られてくる親機のMACアドレスを入力します。
適用をクリックし、CPUリセットを行います。

(これまでどおり、メンテナンスモードでこれらの項目を設定することもできます。)

●Telnet, シリアルでの制御と応答

Telnet, シリアルでも一斉電源制御を親機として実行できるようになりました。使用するコマンドは以下です。

(x=1~8, xはグループ番号を示します)

BPONx :	該当グループ全アウトレットの電源出力開始
BPOFx :	該当グループ全アウトレットの電源出力停止
BPORx :	該当グループ全アウトレットのリブート(電源リブート)

実行の後、親機のコマンド実行結果応答に加えて、子機の応答結果が表示されます。

[5] 電源管理クラウド365側スケジュール設定書き込み機能

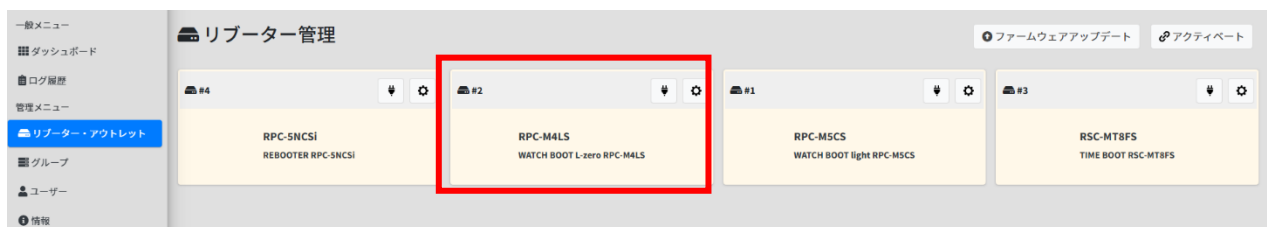
電源管理クラウド365のスケジュール登録画面から、リブーター側のスケジュール設定に書き込みをするか選択できるようになりました。

注意 (サーバー連携機能有効化にも「NTPサーバー」設定は必須のため、既に設定済みと考えられますが) スケジュール設定を使う場合はNTPサーバーの設定が必要になります。

●リブーターのスケジュール設定書き込み機能有効化

★これらの設定を行うことで電源管理クラウド365WEB画面の「アウトレット」-「スケジュール」-「スケジュール追加」で「このスケジュールをリブーターに書き込み」ボタンが表示されるようになります。この機能を利用される際は、必ずリブーターごとに設定を行ってください。

電源管理クラウド365の「管理メニュー」-「リブーター・アウトレット」でスケジュール設定したいリブーターを選び、右上の歯車マークを選択します。



リブーター登録の画面で「スケジュール設定をリブーターに書き込み」を有効にし、保存します。

機種名
WATCH BOOT L-zero RPC-M4LS

ファームウェアバージョン
4.30A.250128.4

デバイスNo.
2

デバイス名称

使用切り替え
☒ 許可

スケジュール設定をリブーターに書き込み
☒ 有効

「有効」・・・電源管理クラウド365がリブーター内部スケジュールを管理します。リブーター内部スケジュールは、電源管理クラウド365上で登録した指定スケジュールで上書きされます。

「消去」・・・電源管理クラウド365によるリブーター内のスケジュール管理を中止します。電源管理クラウド365が書き込んだスケジュールをリブーター内から消去します。

デバイスメモ

画像URL

保存 削除

●スケジュール設定書き込み機能「する」と「しない」比較

電源管理クラウド365からスケジュール登録をしたいアウトレットを選択し、「スケジュール」-「スケジュール追加」を選択し、保存します。

☒ 曜日を指定する ☐ 日付を指定する

月	火	水	木	金	土	日
---	---	---	---	---	---	---

時間を指定

動作

有効/無効

☒ 有効

このスケジュールをリポーターに書き込み

☐ しない

「する」・・・このスケジュールはリポーター内部スケジュールに書き込まれます。このスケジュールはリポーターが実行します。

「しない」・・・このスケジュールはリポーター内部スケジュールには書き込まれません。このスケジュールは電源管理クラウド365が実行します。

リブーターに書き込み「する」	リブーターに書き込み「しない」
----------------	-----------------

電源管理クラウド365WEB画面

The screenshot shows the 'リブーターに書き込み' (Write to Rebooter) option selected in the top right corner. Below it, there is a calendar view with '水' (Wednesday) selected, a time picker set to '10:15', and a 'リブート' (Reboot) button. At the bottom, there are '編集' (Edit) and '削除' (Delete) buttons.

スケジュール設定をリブーターに書き込んだ場合、仮にスケジュールした時間に通信途絶が起こっていたとしても、リブーター内部のコマンド実行によってスケジュール機能が実行されます。

The screenshot shows the 'サーバーから実行' (Execute from Server) option selected in the top right corner. Below it, there is a calendar view with '水' (Wednesday) selected, a time picker set to '10:15', and a 'リブート' (Reboot) button. At the bottom, there are '編集' (Edit) and '削除' (Delete) buttons.

スケジュール設定をサーバーから実行の場合、サーバーから指定の時刻にコマンドを置き、スケジュール機能が実行されます。仮にその時間に通信途絶が起こっていた場合、1分以上の途絶が起こるとコマンドが自動で破棄されます。

RPC-M4LS WEB画面

スケジュールリスト						
No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	水	10	15	ON
2	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
3	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
4	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作

リブーターに書き込まれると、RPC-M4LSのWEB画面でもスケジュールリストも更新されます。

スケジュールリスト						
No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
2	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
3	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
4	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作

サーバーから実行のみの場合はスケジュールリストに反映されません。

●複数アウトレットにスケジュール設定書き込み

複数のアウトレットをグループ登録し、スケジュール設定書き込み機能をまとめて書き込むことができます。

例 電源管理クラウド365WEB画面-管理メニューの「グループ」-「グループ追加」-「アウトレット選択・選択解除」からRPC-M4LSのアウトレット1、3をグループに設定します。

グループ登録

スケジュール 戻る

グループ

グループNo.
7

グループ名称
グループ1

このグループに所属するアウトレット

#G7-1(#2-1)

アウトレット0002-1

#G7-2(#2-3)

アウトレット0002-3

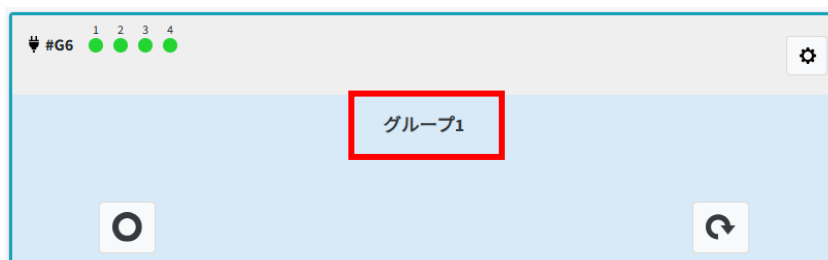
保存

削除

戻る

グループのスケジュール設定をする方法は2通りあります。

①電源管理クラウド365のWEB画面-一般メニューの「ダッシュボード」から先ほど作ったグループを選択し、「スケジュール」-「スケジュール追加」で設定。



②電源管理クラウド365WEB画面-管理メニューの「グループ」から先ほど作ったグループの右上にある歯車アイコンを選択し、画面右上に出てくる「スケジュール」-「スケジュール追加」で設定。



スケジュールを以下のように設定し、「リブーターに書き込み」を有効にし、保存します。

スケジュール登録

戻る

スケジュール登録 #G6 グループ1

グループNo.
6

グループ名称
グループ1

☒ 曜日を指定する
☐ 日付を指定する

月 火 水 木 金 土 日

時間を指定

10:00

動作

リブート

有効/無効

有効

このスケジュールをリブーターに書き込み

する

「する」・・・このスケジュールはリブーター内部スケジュールに書き込まれます。このスケジュールはリブーターが実行します。

「しない」・・・このスケジュールはリブーター内部スケジュールには書き込まれません。このスケジュールは電源管理クラウド365が実行します。

保存

戻る

RPC-M4LSのWEB画面-「スケジュール」を見ると先ほどのスケジュール設定がアウトレット1, 3にそれぞれ書き込まれていることを確認できます。

WATCH BOOT L-zero
RPC-M4LS

状態表示

簡易状態表示

詳細状態表示

イベントログ

制御

電源制御

機器設定

システム設定

ネットワーク設定

監視設定

スケジュール

システム情報

スケジュール設定

スケジュールリスト

No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	月	10	0	Reboot
2	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	火	10	0	Reboot
3	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	水	10	0	Reboot
4	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	木	10	0	Reboot
5	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	金	10	0	Reboot
6	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット3	月	10	0	Reboot
7	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット3	火	10	0	Reboot
8	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット3	水	10	0	Reboot
9	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット3	木	10	0	Reboot
10	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット3	金	10	0	Reboot
11	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作

20

●複数リブーターのアウトレットにスケジュール設定書き込み

他機種のリブーターのアウトレットを個別に選択しグループを作成することで、スケジュール設定書き込み機能を複数リブーターのアウトレットに反映させることができます。

例 **RPC-M4LS**と**RPC-M5CS**の2台のリブーターのアウトレット1, 2をそれぞれ選択しグループを作成します。



下記のようにグループのスケジュール設定を行い、「リブーターに書き込みする」と選択します。

スケジュール登録

戻る

スケジュール登録 #G6 グループ1

グループNo.
6

グループ名称
グループ1

☒ 曜日を指定する ☐ 日付を指定する

月 火 水 木 金 土 日

時間を指定
10:00

動作
リブート

有効/無効
有効

このスケジュールをリブーターに書き込み
する

「する」・・・このスケジュールはリブーター内部スケジュールに書き込まれます。このスケジュールはリブーターが実行します。
「しない」・・・このスケジュールはリブーター内部スケジュールには書き込まれません。このスケジュールは電源管理クラウド365が実行します。

保存

戻る

RPC-M4LSのWEB画面-「スケジュール」を開くと、スケジュール設定がリブーターに書き込まれていることを確認できます。

No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	月	10	0	Reboot
2	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット2	月	10	0	Reboot
3	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
4	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作

同様にRPC-M5CS側でもスケジュール設定がリブーターに書き込まれていることを確認できます。

No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	月	10	0	Reboot
2	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット2	月	10	0	Reboot
3	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
4	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作

注意:電源管理クラウド365からスケジュール設定をリブーターに書き込むと、
それまでRPC-M4LSのWEB画面から設定していたスケジュール設定は
全て削除されます。

例 RPC-M4LSのWEB画面で以下のようにスケジュール設定がなされている状態とします。

No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	月	10	0	Reboot
2	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット2	火	10	0	Reboot
3	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット3	水	0	0	Reboot
4	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット4	木	0	0	Reboot
5	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
6	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作

この状態で電源管理クラウド365WEB画面からアウトレット1のみ以下のようにスケジュール設定をし直し、「リブーターに書き込み」を選択し、保存します。

☒ 曜日を指定する ☐ 日付を指定する

月 火 水 木 金 土 日

時間を指定

動作

有効/無効
☒ 有効

このスケジュールをリブーターに書き込み
☒ する

「する」・・・このスケジュールはリブーター内部スケジュールに書き込まれます。このスケジュールはリブーターが実行します。
 「しない」・・・このスケジュールはリブーター内部スケジュールには書き込まれません。このスケジュールは電源管理クラウド365が実行します。

RPC-M4LSのWEB画面に戻り、再度スケジュール画面を表示すると電源管理クラウド365WEB画面から設定したスケジュールに上書きされており、書き込み前のスケジュール設定は全て削除されます。

WATCH BOOT L-zero
RPC-M4LS
状態表示
簡易状態表示
詳細状態表示
イベントログ
制御

スケジュール設定

スケジュールリスト

No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input checked="" type="checkbox"/>	アウトレット1	金	10	0	Reboot
2	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作
3	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	全て	0	0	無動作

以上